

追浜あんず通信

Oppama Anzu Press

第15号 2018年6月 発行:特定非営利活動法人 アクションおっぱま

横須賀の過去と現実を伝え広める

震災の年 2011 年から 7 年続けて、第三海堡のガイド NPO 法人で、アクションおっぱまさんにお世話になっております、JR 東労組（東日本旅客鉄道労働組合）、横浜地方本部 横須賀塾と申します。

私達 JR 東労組は、「組合員と家族の利益を守る、そのためには平和であること」が前提という方針に基づき「ユニオンスクール・ヒューマンコース」という名で、花岡、足尾、南房総等、各地で平和研修を毎年開催しています。横浜では、横須賀市の地にある戦跡と軍港をみてもらう「横須賀研修」を担い作り出しています。

その中で、かつて「貝山地下壕」を見学していましたが、東日本大震災の後、横須賀市は貝山に入れなくなりました。そこで見学地を再考していたところ、第三海堡の遺構を NPO アクションおっぱまさんがガイドしていることを知り、案内をお願いすることになった次第です。

第三海堡については、研修の見学地、猿島や観音崎からその場所が見えることから、第一、第二海堡との位置関係と、その作られた経緯について説明していましたが、実際にその場にあったものを目の当たりにして、聞いてみると、その大きさと建設の困難さや技術の高さを実感できました。

参加者からも「この時代にこれだけのものを作っ



た人たちの努力と精神力に感動した」「作られた時代の背景と事実を現代に残していくことが重要だ」「地元に住んでいながら、このようなものがあることを知らなかった、改めて歴史を見直したい」といった感想が出されています。参加者には各地の職場で活躍するリーダーの方が多く、地元に戻って研修を広めて、新しい参加者を連れてくる人もいます。

私達は、これからも横須賀の地の過去と現実を伝え広めていく活動を続けて行きます。

皆さんの活動で、かつての「貝山地下壕」に再び入れることを期待しています。

今後とも宜しくお願いいたします。

(JR 東労組 横浜地方本部 横須賀塾 朝妻一浪)



第三海堡遺構の神奈川県指定重要文化財指定と見学者の動向

夏島都市緑地内にある東京湾第三海堡構造物（観測所、探照灯、砲台砲側庫）は 2013 年に横須賀市指定重要文化財に指定されていましたが、2018 年 3 月 16 日神奈川県指定重要文化財として指定されました（うみかぜ公園にある兵舎も同時指定）。

2012 年度より一般公開を始めましたが、当初はなかなか年間 1,000 人を越えなかったのが、近年は 2,000 人を超えるようになりました。公開方式は、月一回第一日曜日（10:00～16:00）の一般公開日、申し込み制による団体見学、地域のイベントに協賛するイベント公開の 3 種類となっています。今号に原稿を寄せていただいた JR 東日本労組のような団体見学も増えてきています。

国土交通省関東地方整備局では、現在も東京湾上にある第二海堡と横須賀新港地区を結ぶツーリズムに対する航路実現を検討しているとのことですが、第二海堡の歴史的遺産としての見直しも、第三海堡の遺構が文化財指定され、多くの見学者を集めていることが影響していると聞いています。さらなる展開が期待されます。

(NPO 法人アクションおっぱま理事長 昌子住江)



● 満員御礼「第14回おっぱまワイン寄席」

落語家柳家喬太郎をメインに据えた「おっぱまワイン寄席」も、第14回を迎えました。ただ、このところ長年会場としてきた場所が使用できなくなったことから、「おっぱま」と銘打ちながら、追浜での開催が困難になっていました。

今回、やはり“追浜で一流の芸能を”という趣旨を生かすため、多くの方々に追浜開催の可能性を探っていただいたところ、これまでの実績を評価していただき、追浜地域運営協議会のご後援を得て、追浜コミュニティセンター北館3階集会室を会場とすることができました。なお、会場設営等の作業もあるので、おっぱまはっけん倶楽部有志のご



協力をいただくことになりました。

3月28日(金)
14:00開演で、柳家喬太郎、柳家さん若(現在二つ目



ですが、秋には真打昇進の運び)による落語4席。約180名のお客様は、爆笑に次ぐ爆笑で大いに満足されたようでした。

横須賀おっぱまワインを知っていただくためのワンドリンクサービスも好評で、新しい会場で不慣れだったためいくつかの課題もありましたが、喬太郎師匠から次にやるときには、というアドバイスをいただき、逆に次回への期待を膨らませています。

これまでの会場より30~40名多くの方が来られたこともあり、今回が初めてという方も多数いらっしゃいました。これからも追浜の皆様へ、素敵な笑いを届けたいと思っております。
(NPO 法人アクションおっぱま理事長 昌子住江)

● 追浜 de アート —追浜のバレエスタジオ紹介します—

追浜の国道16号線追浜1丁目に伊与田バレエスタジオがあります。

1974年に磯子で開設しその後発展に伴い1999年追浜に新スタジオを開設しました。その間、生徒さんたちが様々なコンクールに出場し受賞数は数多く、業界での評価も高くスタジオは現在も発展を続けています。

主宰の伊与田あさ子さんは「すべての人にバレエを・夢を・未来を」を目標に地域に根ざした

事業を目指しバレエという芸術性を基本にジェンダーフリーに徹した教育を実践しています。年齢、性別、障害の有無を超えて生徒さんたちは楽しく、時に厳しくバレエを学んでいます。



伊与田バレエスタジオ

毎年開催の横須賀芸術劇場での発表会は今年で20回目を迎え現在は出演者全員練習に励んでいます。

バレエは身体の左右対称の筋肉を使う全身運動です、そして究極の美しさを音楽にのせて表現しなければなりません。それは世紀を超え伝統芸術として人々の心を魅了してきました。追浜にこのような芸術スタジオが存在することは地域の自慢でもあります。

主宰の伊与田先生のアイデアで、発表会に地元追浜2丁目のお神輿が登場したことがあり評判になりました。今年もおっぱままつりにはスタジオの駐車場に町内会や生徒さんたちが集まり賑やかにお祭りを楽しむことでしょう。

(NPO法人アクションおっぱま副理事長 河村啓子)

伊与田バレエスタジオ

追浜町1丁目37-18

TEL 046-865-8070

<http://www.asa-twinkle.com>

● 「追浜ふるさとおもしろ写真展」 開催

平成 29 年度横須賀市 NPO 補助金を得て、NPO 法人アクションおっばまとおっばまはっけん倶楽部との協働による「追浜ふるさとおもしろ写真展」を開催しました。



「第 2 回追浜おもしろ写真展」を終えて：

今年 3 月 16 日（金）～ 18 日（日）に予定通り題記写真展を開催でき、お陰様にて盛況のうちを終えられました。振り返れば昨年春から準備にかかったのですが、歴史写真の収集が秋までかなわず、展示候補画像が揃ったのが年末でしたのでスケジュールに追われる日々でした。その間全員で追浜全域を踏破あるいは海上まで出て写真撮影し画像を貯め、二度に亘る選定を経て展示用画像を決め、やっと 2 月初めになって写真の加工整備にかかれた次第です。歴史写真の収集や画像の選定には限られた



担当者が関わりましたが、それ以外は写真の加工整備、広報など全員（約 20 名）で取り組みました。こうして鷹取山と浦

郷を特集に組み計 222 枚（歴史画像 119、最新画像 103）の写真展示にこぎつけ、更に映写会『浦郷、追浜の民衆史』、『追浜、深浦の祭りと榎戸の埋め立て』も催しました。開催当日は大勢の方々と賑わい、殊に 2 日目は映写会も加わりましたので 260 名が訪れ大盛況、3 日間を通じて入場者総数約 580 名を数えました。その間色々なご意見やご感想を頂きましたが、次回も楽しみと期待して下さる方々が多く、嬉しさで次回開催へのプレッシャーを合わせ感じた次第です。一方この催しを通じて我々全員の一体感が益々強まり、今後の活動に向け弾みが付いたように感じます。末筆恐縮ですが、歴史写真のご提供者諸氏、取材等にご協力いただいた横須賀東部漁業協同組合、会場を提供していただき準備に携わっていただいた追浜行政センターそして映写会を務めていただいた一柳洋氏、山田清氏に感謝申し上げます。

（おっばまはっけん倶楽部 西条良彦）

● 「だれでもが安心して暮らせるまち」は、ご家庭の安全から（その 3） 子どものおぼれ事故予防

これから暑い日も次第に多くなり、子どもさんたちが水に親しむ機会が増えますね。

今回は、特に小さな子どもさんの溺れを防止するための心がけともしも溺れが発生した時の対処法について取り上げます。

◎溺れは「倒れやすさ」の防止から

小さな子どもは、頭の方に重心があることに加え、視界が狭く、とっさの状況下で判断したり、危険を予知する力がまだ十分に発達しておらず、プール遊びの時に他の子どもとぶつかったりすると、頭の方から転倒し溺れ易いというリスクがあります。

私たち大人は、小さな子どもの特性を理解した上で、狭いプールに年齢差のある子ども達を一度に沢山入れない等、小さな子どもが転倒しにくい安全な遊ぶ環境を作ってあげる必要があります。

◎溺れには早急な救命救急処置（心肺蘇生法）を

もし、子どもが溺れた場合は、慌てず周りに助けを求め救急車を呼ぶことです。

そして、直ぐに子どもを助け出し、呼吸停止している場合は即座に心肺蘇生法を行います。

救命率は、呼吸停止後時間が経つに従い急激に低下するためです。

救命救急の経験則において、呼吸停止後 10 分経過で死亡率は約 50% 程度、15 分超で約 90% と急激に高くなると言われているので、時間が経てば経つほど助かる命も救えなくなってしまい、まさに時間との勝負です。

これを機会にご家庭でおひとりは救命救急講習を受講し、いざという時に備えると安心です。救命救急講習は消防署で定期的に開催されています。心肺蘇生法の実施手順と合わせてご紹介します。

●横須賀市消防局 心肺蘇生法実施手順

～ガイドライン 2015 対応版～

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/7427/syoubou/sosei/documents/cpr_qrcode.pdf>

●横須賀市普通救命講習会

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/7427/aed/documents/h30futuukyumei_1.pdf>

（NPO 法人アクションおっばま 正会員 綾部豊樹）

●ら・ぶ・いん おっぱま●

湘南鷹取在住 杉山 暢

定年後の人生

退職引退して15年。40冊になる年間手帳を引っ張り出し振り返ると、その頃は会議、打合せ、出張等々スケジュールぎっしり。

2003年からはガラット変わり、ゴルフ、囲碁が主体。そして旅行やウオーキング。絵画、陶芸、料理教室なども…勝手気ままな時期。

2007年から自治会役員や老人会役員等を受けるようになり忙しく。2009年はNPOアクションおっぱま発足、理事に、また同年追浜歴史講座受講者有志とおっぱまはっけん倶楽部を立ち上げた。2010年新装追浜こみゅに亭&ワイナリーがオープン。ワ

イン醸造販売、ワイン寄席など応援。同年東京湾第三海堡遺構の移設記念式典そして一般公開へ。

この10数年、仲間の皆さんといろいろな活動をやってきました。貝山地下壕、追浜トンネル、第三海堡の冊子づくり、第三海堡のガイド、「ぶらり街歩き」ツアー、「追浜歴史入門講座」、ふるさと写真展、追浜七福神巡りガイド…。また貝山緑地の杏の里の下草刈り、剪定、消毒、収穫の日の賑いも良い思い出。

三浦三十八地蔵尊(次の御開帳 2023年)、三十三観音巡り、浦賀みち、魚荷道など歩きましたね。深夜何故か、横須賀隧道から浦郷隧道の8つのトンネルを歩いたことも。後期高齢者になって終活の時期断・ゴルフ、捨・車免許、離・ボラ活動?。まもなく来る重老齡社会。観光、歴史資産を活かした追浜の地域ぐるみの再構築が期待されます。

● 深浦井始めました — 追浜名物料理誕生 —

追浜商盛会のプロデュースによる名物料理が誕生しました。追浜唯一の深浦漁港の漁師と地元飲食店組合が手を結び努力が実った、新しい追浜名物です。

あさりたっぷりの甘辛のだし汁をトロトロ卵でとじた「深浦井」、健康ブームの主演級のアカモクを大量に盛りシラスや三崎マグロのすき身を贅沢に乗せたネバネバシャキシャキ「あかもくすき身井」です。



▲ あかもく井



▶ 深浦井

「深浦井」はあさり収穫時期の期間限定、アカモクは通年で食べることができます。お店は追浜本町の「寿徳庵」で定番の「おっぱま塩焼きそば」もあります。是非、お楽しみください。

(NPO法人アクションおっぱま副理事長 河村啓子)

● 「地域運営のコツって何？」

近年、自治会や町内会、子供会などで担い手が高齢高齢化している、またなかなか新しい担い手がいないとか聞くことはありませんか。実は地域には多様な人がいます。男女や若い人、外国人、障害者などいるのですが必ずしも皆が活躍できていないのかもしれない。皆が生き生きと暮らしていける地域づくりができればこのつぶやきはなくなると思いませんか。(NPO法人 かながわ女性会議 パンフレットから)

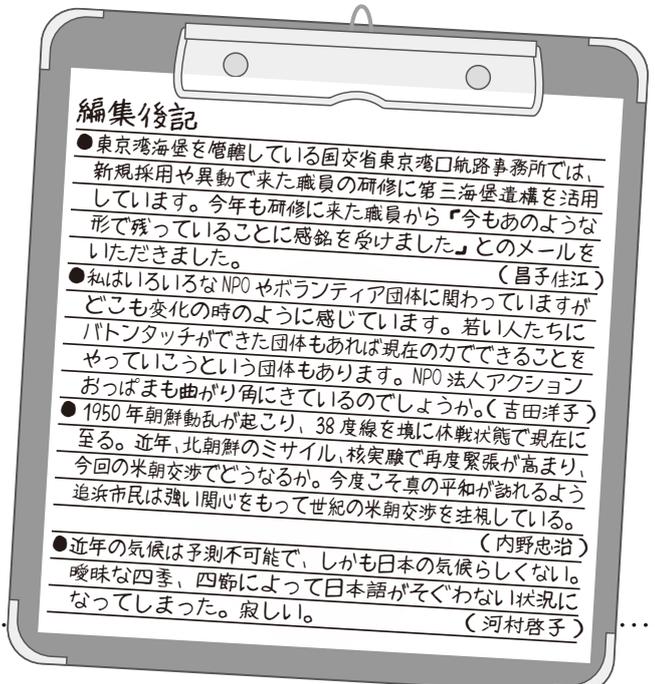
地域参加の7つのコツ

- 1 活動は“楽しく”が大切→継続していくには楽しくないと続きません。みんなでワイワイが重要ではないかと思えます。
- 2 若い人に任せる→若い人のやり方に任せてみる。若い人のネットワークをいかす。
- 3 “主役”は誰かを考える→子供会の主役は子どもではないのか。そこに目をつけて子どもたちが主体の子供会を考えてはどうか。
- 4 “地域の力”を発揮する→皆何かの力を持っています。パソコンが得意、音楽なら任せていろいろな力を活かす活動を

考えていってはどうでしょうか。

- 5 “呼びかけ方”を工夫する→楽しいよびかけを若い人の力も借りて行ってみましょう。
- 6 “変化”を楽しむ→今までのやり方にこだわっていませんか。変わっていいのでは
- 7 “気楽に参加”から始める→義務からはいるのではなく、楽しいことからかかってみる。またちょっとしたボランティアから初めてみる。

(NPO法人アクションおっぱま理事 吉田洋子)



追浜あんず通信 15号 2018年6月発行

発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま
発行人 昌子住江
編集 NPO 法人アクションおっぱま編集委員会